



入口には入場を待つ人の長蛇の列ができました



多彩なステージイベントで道の駅のオープンを盛り上げました



また、9万9999人目の菅野さん家族（宮城県角田市）と10万1人目の橋本さん家族（川俣町）にもそれぞれ記念品が手渡されました。

◀ 10万人目となった高橋さん夫婦（中央）



グランドオープン当日は県内外から訪れた多くの人で賑わいました

交流人口拡大へ加速

町の活性化に向けて

待望のグランドオープンを迎えた道の駅国見あつかしの郷。東北最大級ともいわれるこの道の駅は、町の活性化の核となる施設として大きな期待が寄せられています。その活性化の糸口のひとつが「交流人口」の拡大です。

地域に住む人を「定住人口」と言いますが、その地域に訪れる人を「交流人口」と言います。少子高齢化が加速し、定住人口の増加を望むことが困難となった昨今、交流人口は町の活

力創出に欠かせない重要な存在です。国見町の人口約9500人に対し、国道4号を通過する車の台数は1日約1万7000台。ここに、交流人口拡大への可能性があります。

単なる通過点から目的地としての町へ。順調な船出となった道の駅国見あつかしの郷ですが、私たちはその先を見据えています。

初日来場は1万人超

オープン当日、道の駅は朝早くからオープンを心待ちにする多くの人であふれました。GWということもあり、県外ナンバーの車も数多く見られました。

混乱を避けるために整理券による入場制限が行われ、午前10時の入場開始と同時に、入口には長蛇の列ができました。入場を待つ人は、中央広場で繰り広げられた多彩なステージイベントを楽しんでいました。

夕方になっても来場者は途切れず、オープン初日の来場者は1万人を超え、町の人口を上回りました。予想をはるかに上回る来場者の多さに、道の駅への関心、期待の大きさを実感するとともに、今後の町の交流人口の拡大に向けて、明るいスタートとなりました。

来場者10万人達成！

オープンから11日目の5月13日、早くも来場者10万人を達成し、記念セレモ

ニーが開催されました。

記念すべき10万人目は伊達市から来場の高橋見一さん・美恵子さん夫婦。太田久雄代表取締役から記念品が手渡された二人は、「こういう経験は初めてで本当に嬉しいです」と喜びを語りました。飲食店を経営する高橋さんは今回で既に4度目の来場とのこと、「野菜が新鮮でおいしいので、ここで食材を仕入れることもあります」と、早速リピーターになっていただいたようです。